

芸術で狼煙をあげよう

立正大学心理学部臨床心理学科・4年 ヨコヤマ アオイ 横山 葵

福島は震災で多くのものを失った。突如降ってきた絶望は大きなマイナスからのスタートを目の前に突きつけた。この十年でマイナスはゼロになり、新たに生まれ変わるための基盤を整えた。そして今、福島に最強の武器を持って新たなステージへと踏み出してほしい。福島は日本で最も新しいステージに挑める可能性を秘めているのだから。

目指す新たなステージは「芸術の町・福島」。そして、最強の武器こそ、東日本大震災からの復興である。

芸術には凄まじい力がある。芸術は、時に経済や武力、政治よりも人を動かす力を持つのである。それは芸術が常に更新されているからだ。例えば、一つの流れの発展や反抗。政治や宗教からの派生、反骨精神。技術の進歩による創作の広がり、等。更新される背景には、必ず歴史や世界、人の変化がある。そして、それらによって生まれた作品や流れは、変化の象徴になるのである。アメリカはこれをよく理解していた。第二次世界大戦によって確固たる地位を築いたアメリカは、世界の覇権を握ったことを象徴するために、自国の芸術の更新に奮闘した。連邦美術計画と呼ばれる大規模な芸術家の支援を行ったのである。軍事力、経済力、政治力だけでは示せない、前向きな新しい風を吹かせる芸術の覇権を握ることが目的で、詳細は省くが、実際に戦後、パリからニューヨークへ芸術の中心を移すことに成功している。現代アートの風潮をもたらしたのだ。芸術の新たな発掘のよい手本である。

もう一つ。芸術そのものに強い発信力がある。四年に一度のオリンピックで国の伝統や文化が披露されるのは、国の顔になる力を持っているからだ。エッフェル塔や太陽の塔、自由の女神はまさに時代の変化の象徴である。パブロ・ピカソは絵画の力で反戦と平和を世界に強烈に訴えた。日本の歴史を振り返ってみても、かの有名な千利休は戦国時代において高い芸術力で一時はとてつもない影響力を持ち、それを恐れた豊臣秀吉によって町人としては異例の切腹をさせられている。それほど、芸術というものは武力や政治などよりもよっぽど抵抗なく人々に影響を与えるのだ。

福島は多くを失ったからこそ、新しい町になった時の変貌ぶり、差が大きな影響力になる。新たに生まれ変わる象徴をつくり、震災の爪痕や、福島に根付く文化・芸術はもちろん、日本・世界の最新の芸術にアンテナを張り福島のもとに集結させよう。日本が誇る現代アートの芸術家・村上隆など、福島に芸術性を見出す人は既に現れている。震災・原発の事故が前代未聞の規模であった分、「芸術家×福島」は今までにない前代未聞の芸術を生み出すのではないか。東日本大震災により世界に名が知られるようになった福島が芸術の町になれば、世界は放っておかないだろう。今なお環境問題は世界に根を張り続け、至る所で大きな気象変動、災害が今後も繰り返されるだろう。復興の最良の手本を示すために、環境への取り組みの尽力を伝えるために、芸術の力で人を呼び込むのである。

環境問題とは変化を感じづらい。十年を経て確実に良くなっている福島の環境に人々は関心が薄く、目に見える変化が少ない分把握もしづらい。そもそも、十年経ったことで、東日本大震災が過去のものになりつつあり、忘れられはじめている。芸術の力で、福島を過去にせず、常に更新していこう。

環境活動家のグレタ・トゥーンベリさんを考えてみる。2018年の彼女の演説は世界の人々に多大な影響を与えた。もちろん人によって捉え方、賛否は違うが、彼女によって環境問題を知る、考えるという切っ掛けがばら撒かれたのは紛うことなき事実である。ずっと前から存在していた世界の環境問題に、強力なメッセージを放つ若い少女という話題性、意外性がスポットライトを当てたのである。福島も同じだ。環境問題、取り組みをただ発信するだけでは今の時代届かない。震災が忘れられないために、環境に関心をもってもらうために、芸術と象徴を手にしよう。もう震災を悲観的にだけ発信するのはやめよう。震災が背景にあるからこそ伝えられる強いメッセージを無駄にしていけない。芸術という明るい前向きな力で、世界からも注目される新たな町になれば、同時に復興の力強さ、環境への甚大な努力も必ず人々に届くのだから。